

「若年性認知症」とは?

認知症は、加齢とともに発症するリスクが高くなる疾患です。しかし年齢が若くても発症することがあり、65歳未満で発症した場合は「若年性認知症」といいます。働き盛りの世代にも起こる認知症は、本人だけでなく家族の生活に与える影響は高齢者の発症に比べ大きく、社会的にも重大な問題となっています。

おだやかだったはずの夫が、まるで別人のようなふるまいをする。母が得意だった料理を作らなくなる。同僚が約束を守らない、忘れるなど、得意先からのクレームが増えた…。

こんな疑問や不安をお持ちの方、ひとりで悩まず私たちにご相談ください。私たちが一緒に解決策を考えます。

「認知症介護研究・研修大府センター」は、若年性認知症の研究と支援に取り組んでいます。

「認知症介護研究・研修大府センター」は、平成13年4月に社会福祉法人 仁至会の施設のひとつとして発足した、認知症介護の研究・研修組織です。

平成21年10月1日、厚生労働省の「認知症の医療と生活の質を高める緊急プロジェクト」に基づいた若年性認知症施策の取り組みのひとつとして全国初の「若年性認知症コールセンター」が、当センターに開設されました。専門的教育を受けた相談員が、誰もが気軽に相談できるコールセンターを目指して若年性認知症の人、ひとりひとりの状態に応じた支援を行っています。



相談は無料です。下記フリーコール(無料)まで

若年性認知症コールセンター 0800-100-2707

月~土曜日 (年末年始・祝日除く)
10:00~15:00



社会福祉法人 仁至会
認知症介護研究・研修大府センター
〒474-0037
愛知県大府市半月町3丁目294番地

若年性認知症コールセンター

検索

個人情報
厳守します

若年性 認知症 コールセンター



ひとりで悩んでいませんか?

<http://y-ninchisyotel.net/>

働き盛り世代の発症は 周辺にも大きな影響を及ぼします。



配偶者への影響

家庭での役割を一人で担わなければならない妻が発症した場合、家事ができなくなることもあり、夫は仕事が十分に続けられなくなる場合があります。経済的負担のほか、家事、介護の負担も考えられます。



子供への影響

子どもにとっても心理的影響は大きいです。中学生・高校生では自分自身も大きく成長していく時期でもあり、親を頼りにする時期でもあります。そういった状況の中、認知症に対する理解は難しく、なかなか受け入れることができません。



仕事への影響

認知症を発症した場合、記憶力の低下によって、ミスが増えたりして、仕事に支障が出てくると考えられます。診断が遅れたり、上司や同僚になかなか気付いてもらえない場合は、配置転換、勤務時間の調整などの対応が遅れてしまいます。本人は仕事を続けたいという気持ちも大きく、精神的にとてもつらい思いをすることになります。

Case1

Aさんは、妻(54歳)がうつ病で、投薬治療をつけていましたが、よくなるどころか、症状はひどくなるばかりです。新聞で読んだ「若年性認知症」を疑い、コールセンターに相談をされました。



専門的な検査と診断を受けることができる医療機関の情報を提供いたしました。

Case2

Bさん(20歳)のお母さんは「若年性認知症」と診断され、病院での治療をしています。お母さんの症状は安定していますが、Bさんは、自分も遺伝によりいつか発症するのでは、と思うといたたまれずコールセンターに相談をされました。



原因となる疾患が多岐にわたる事と共に、それぞれの疾患の研究状況についてご説明いたしました。

Case3

Cさん(58歳)は「若年性認知症」の発症で仕事を失う事はありませんでした。しかし、症状の進行により業務に支障が出て退職を迫られています。子供の進学、家のローンなど経済的な不安もあり、ご本人からコールセンターにご相談がありました。



経済的支援をはじめとする社会保障についての情報をご案内いたしました。